



# 農工大で年2億円ラボの 20代PI博士をつくらう

即戦力人材を育てろ、という言葉がアカデミアに届くようになって2000年以上が経ちました。

それでもまだこの言葉が高いハードルを想起させるのは、

大学の成果物が見えるようになる頃には当時の教員たちが鬼籍に入っているからでしょう。

年功序列の制度下で人物が即戦力であるかを検証することは不可能であって、独立させるしかないのですが、独立した者を見ると、この20年間で農工大は年収2000万円の20代即戦力を育てていることがわかります。

府中と小金井の2キャンパスの間を2000回程往き来しながら即戦力が育つとき、学生と教員の2者がどのように協力し合ったのか、2000日経った今日振り返ってお伝えします。



株式会社日本バイオデータ  
CEO and Founder  
緒方法親氏 (本学卒業生)

1986年生、東京農工大学大学院博士課程在学中に次世代シーケンサーとバイオインフォマティクスに出会う。細胞の薬剤応答を調べるための理想的な薬剤濃度を定量的に求める方法を考案し、神奈川県支援を受けて特許を取得、株式会社日本バイオデータを設立。現在に至るまで企業を中心に生物データ解析サービスを提供している。研究のフィールドを生物から情報にひろげ、2017 Thirteenth International Conference on Intelligent ComputingにてBest Paper Awardを受賞。現在は半導体製造技術を利用した医療機器の開発に取り組んでいる。

7月12日(金) | 6:30~17:30

農学部本館 講堂

入場無料・事前申込不要

情報交換会：生協2階オリザ (教職員参加費 2,000円)

問合せ先：東京農工大学企画課広報係 (TEL 042-367-5895)